

小論文・志望理由書対策

目次

p.2 第1章 論理的文章(小論文・志望理由書)の書き方への第一歩

p.3~ 第2章 読み手を納得させる

p.7~ 第3章 根拠を充実させる

p.10~ 第4章 型に沿って文章を書いてみる

p.12  「確かに A は～である。しかし B は～である。」構文の使うときの注意点

p.13~ 志望理由書編

この資料を一言で言えば「文章の型を身に着けるための資料」である。

小論文や志望理由書を書く練習として「ひたすら書きまくる」より、「型を身に着けて書く」方が確実に勉強時間を短縮できると思いやす。だからまずは書き方を理解していこう。

※読解について

文章の書き方というのは、実は読解するときに役に立つんですわ。読解において文章の書き方を理解することはすなわち、「敵を知る」ということである。

ここでいう「敵」というのはまさに「入試に出てくる奇怪な文章」である。アイツらの怪文章を理解する時には「文章の書かれ方」という知識がまるで、怪文書を読むためのマニュアルのような役割をしてくれる。(怪文書とか言うたら怒られる…)

要は、読解を制するためにはまずは「敵(文章の書かれ方)を知る」というのが大事ってワケなんです。大学受験でも、敵(入試)の傾向を知るために過去問解くやん。そういうことよ。お～ん。

前置き長いと良くないんで(既に長い)、さっそくスタート。

第1章 論理的文章(小論文・志望理由書)の書き方への第一歩

論理的文章はどんな文章であってもあることが共通しておる。それが、「何かを伝えたい」ということである。小論文なら課題文に対して賛成か反対か、志望理由書なら、なぜその大学・高校を志望するか。

まずはひとことで「何を伝えたいか」を考えていく。

 課題① 自身の状況に合わせて穴埋めする。

今から書く文章では、私は「」が言いたい!!!

おめでとうございます!!!!

これで第一歩を踏み出しました!!!! やったぜウオオオオオオオ!!!

どんどん読み進めて、あなただけの文章を完成させていきましょう!!!

ノってきたぜへいへいへいへいへい、あそれヨヨヨイのヨイ、セイセイセイセイ

第2章 読み手を納得させる

このパートは図解でゴリ押しますわ。おーん。ゴリ押し過ぎてゴリラになる可能性あり。

読み手を納得させる文章を書くには「主張」を支える「理由」を書き、「理由」を支える「根拠」を書かなければならない。



主張は理由と根拠によって支えられているのだ。

まずは「主張」+「理由」+「根拠」の3つで1セットと考えるべし。

加えて、「根拠」はただ書けばいいというわけではなく、内容をしっかり書いて充実させる必要がある。



根拠モリモリ。

正しい根拠を言えおじさんも、これにはダンマリ。

ただし、根拠が主張からブレてはならない。必ず主張に一貫した内容でなければならない。
以下 2 つは正しくない根拠の例

例① ズレまくりの根拠



とにかくズレまくりパターン

根拠がズレまくりの文章の例)

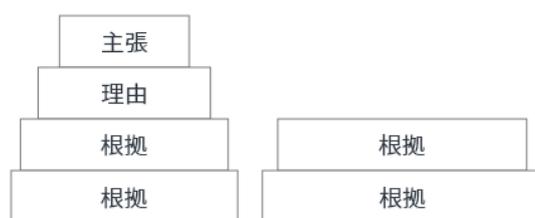
【主張】原子力発電所は再稼働に反対です。

【理由】なぜなら危険だからです。

【根拠】核爆弾の爆発は町を破壊します。もし町が壊れると日本の経済が停止します。

→ 核爆弾の爆発と原子力発電所の爆発は同じではないし、町が壊れると日本の経済が停止するという論理も成立していない。

例② 主張・理由に全く関係ない根拠



文字数の欲しさに主張・理由と関係ない根拠を持ち出しちゃったパターン

根拠がズレまくりの文章の例)

【主張】原子力発電所は再稼働に反対です。

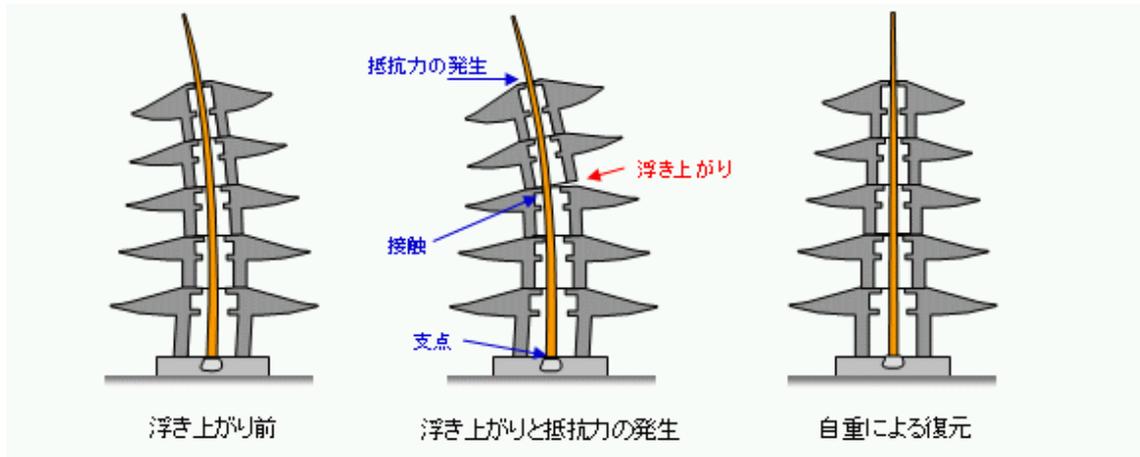
【理由】なぜなら危険だからです。

【根拠】電力不足は他の方法で解決できるので原子力発電所は不要です。

→ 電力不足の話は危険であることの根拠になっていない。

正しい根拠の書き方のイメージとしては「心柱」がよいと思われる。

※心柱・・・法隆寺の五重塔とかスカイツリーに用いられている建築方法。建物の真ん中に一本の柱をぶち抜き、耐震性を高めることができる。



こんな感じで主張・理由・根拠に一貫した柱を立てて論じていくってワケよ。悪くない例えやろ。



ぶちぬきしていくうー。耐震性抜群。

大切なのは「ブレない根拠」と「合格するというブレない意志」ってワケよ。

第2章まとめ

✔ 「主張」+「理由」+「根拠」の3つの1セットで書く。

【主張】・・・文章で一番言いたいこと。小論文なら課題文に対して賛成か反対か、志望理由書なら、なぜその大学・高校を志望するか、みたいな感じ。

【理由】・・・なぜその主張をするのかという部分。

【根拠】・・・なぜその理由なのかという部分。これが多ければ多いほど具体的な文章になる。

✔ 主張・理由に一貫した根拠を書く

 課題② 課題①で考えた主張に対する理由を考える

①だと主張する理由は「

」だからです!!

第3章 根拠を充実させる

根拠のない文章の例)

私は原子力発電所の再稼働に賛成である。なぜなら電力が不足しているからだ。

主張：私は原子力発電所の再稼働に賛成である。

理由：なぜなら電力が不足しているからだ。

↑これで納得いく人は少ない。なぜなら「どのくらい電力が不足しているのか？」や「なぜ他の発電方法じゃダメなのか？」や「危険なのでは？」といった疑問に対する説明が無いからである。

これらを読者に納得いくように説明する部分が**根拠**のパートである。

当たり前だが、根拠がしっかりと書かれていれば読者を納得させる文章になるし、反対に根拠がイマイチであれば読者は納得しない文章になる。

ではそもそも根拠とは？

根拠は「**論拠**」+「**説明**」+「**例示**」の3要素で構成すると良い。

(1) 論拠

前章の課題②で理由を考えたと思うが「なぜその理由なのか」という理由に対する考え・背景などを論じる部分。「理由の理由」と思ってもらっても問題ないと思う。

論拠の例)

主張：私は原子力発電所の再稼働に反対である。

理由：なぜなら原子力発電所は危険であるからだ。

論拠例①：原子力発電が危険であると考えられるのは、爆発によって周囲に多大な被害をもたらす可能性があるからである。

論拠例②：原子力発電は他の発電方法に比べて、周囲に多大な被害をもたらす爆発が起きる可能性がある。

→ ①②どちらも「なぜなら原子力発電所は危険であるからだ」という理由を支える内容になっている。

(2) 説明

話を具体的に論じる部分。

説明の例)

主張：私は原子力発電所の再稼働に反対である。

理由：なぜなら原子力発電所は危険であるからだ。

論拠：原子力発電は他の発電方法に比べて、周囲に多大な被害をもたらす爆発が起きる可能性がある。

論拠の説明：この爆発は単に衝撃によって被害が出るだけではなく、爆発が放つ放射能によって人々が被曝したり土壌汚染が発生したりする。

→ 論拠にある「多大な被害をもたらす爆発」をより具体的に説明をしている。

(3) 例示

実例・経験・データを用いて論じる部分。現実の例やデータを用いることで、理屈だけでは伝わりにくい話を補強する役目がある。

例示の例)

主張：私は原子力発電所の再稼働に反対である。

理由：なぜなら原子力発電所は危険であるからだ。

論拠：原子力発電は他の発電方法に比べて、周囲に多大な被害をもたらす爆発が起きる可能性がある。

論拠の説明：この爆発は単に衝撃によって被害が出るだけではなく、爆発が放つ放射能によって土壌汚染が発生する。

論拠の説明の例示：例えば 2011 年の東日本大震災での原発事故では、放射性物質によって発生した汚染土の量は東京ドーム 11 杯分を超えている。

→ 実際のデータを示すことで、論拠の説明にある「土壌汚染が発生する」の説得力が増す。

といった具合に「論拠」+「説明」+「例示」の3要素を組み合わせて具体的に論じていく。

なお、以上で挙げた例文はまだ説得力には不十分なので、実際に論じる際にはさらに多くの「説明」を加えて論じることになる。つまり、「論拠の説明の説明の説明の…」みたいになるってワケ。そのぐらいしないと、十分に説得力のある文章にはならないので頑張ってみましょ。ア-イ。

第3章まとめ

- ✓ 根拠は「論拠」+「説明」+「例示」の3要素を組み合わせて具体的に論じる。
- ✓ 根拠の段落初めは「論拠」から述べた方が話をつなげやすい。(なぜなら論拠は理由に対する考え・背景などを論じる部分であるので、理由に続けて書いた方が文の繋がりが明確になるから。)
- ✓ 説得力のある文章は自ずと「論拠の説明の説明の例示の説明の…」みたいな形になる

 課題③ 課題①で考えた理由に対する論拠(なぜその理由になったのかの考え・背景など)を考える

なぜ課題②のような理由を考えたかを以下の「」に書きましょ

「
」

 課題④ 課題③で書いた論拠をさらに深堀していく。

第3章で示した原子力発電所の例文を参考に、論拠を深堀する一文を書いてみるべし。できたらそれに必要な説明や例示を書いてみよう。

※もっと参考の例文を読みたいなら、巻末にある「志望理由書の例」を見てみるといいかもしれん。

第4章 型に沿って文章を書いてみる

ここまでは「主張」と「理由+根拠」を学習してきた。これに「結論」を加えることで、文章が完成する。これら3つを揃えることで文章の型が完成すると思っただきたいです。

①文章の型とは??

- (1) 主張
- (2) 理由+根拠
- (3) 結論

である。いわば三段論法というヤツ。

時々「起承転結が大事!!」と言う人もいるが、小論文において起承転結の「転(場面や話が転じること)」は基本的に必要ないので、三段論法でお願いしやす。

②結論の書き方

結論とは「主張」と「理由+根拠」をまとめるパートである。つまり要約をすればよい。

よく「同じことの繰り返しでいいんですか?」って思われがちだが、むしろ結論で全く考えを述べるのは一番やってはいけないことである。その理由は単純で、結論で新しい考えが登場しても、それをも支える根拠がどこにもないからである。

ではとりあえずいい結論の例と悪い結論の例を見て差を確認してみようぜ。

次のページへ GOOOOO

誤った結論・正しい結論の例

【主張】：子供に長時間一人でテレビを見せるべきではない。

【理由】：子供の言語能力の低下につながるからである。

【論拠】：言語能力の成長は親とのコミュニケーションの時間が重要であるが、テレビを見ている時間が長いとその分、コミュニケーションの時間が減る。

【論拠の例示】：実際に日本小児科学会では1歳6か月の子供を退位賞に調べた研究結果がある。

【論拠の例示の説明】：その研究では親子の会話が少ない家庭では子供の有意語の出現が遅れるということが示された。

【論拠の例示の説明の説明】：特に、長時間視聴家庭の子供の有意語出現の遅れ率は短時間視聴の子供の2倍であった。

【誤った結論】：よって親の指導が必要である。

【正しい結論】：よって言語能力の低下の観点から、コミュニケーションの時間を長くとるためにテレビを長時間魅せるべきではない。

↑「親の指導が必要である」を支える文章が一切無い。言語能力が低下するという話だったのに、最終的にそこに着地!?!?!?ってなるワケ。しかも、そもそもの主張からズレた結論になっている。

この結論部分でも結局は一貫性が求められるのである。第2章で述べた心柱の例は結論すらも貫くのである。



だんご3兄弟の串みたいなもんや。串にささったダンゴ 🍡

💡「確かにAは～である。しかしBは～である。」構文の使うときの注意点

文章の型について話したが、型と言えは「確かに～である。しかし～である。」をある種の構文（**樋口式**と呼ばれる構文）のような、型のような、そんな感じでとりあえず使う方もいらっしゃるのでは。

このコーナーは「この構文は間違った使い方をすると死ぬ」という話をするコラムである。

結論、この構文を使うときには「**Aで述べた内容の反論を必ずBに書くこと**」に注意していただきたい。なぜこのような注意書きをしたかという、この構文を乱用する方の中に「Aの部分でとりあえず相手の意見を肯定する」だけに留まっている方がいる気がするからである。

すなわち、この「確かに～である。しかし～である。」構文は**相手の意見に反論する構文**ということである。間違ってもこの構文を**相手の意見を肯定して自分の意見を主張する構文**みたいな捉え方はしてはいけない。

×間違った考えの人



とりあえず相手の立場のいいところ探して…
自分の立場のいいところ論じよ!!

↑相手のいいところ書いただけ書いて、それに反論しないタイプの人

○正しい考えの人



相手の立場の一見良さそうに見えるところを書いて…
それを自分の立場でしっかり反論!!

何も考えずに樋口式で書くのはやめて、文字数制限内で対立意見に反論を十分に論じることができる場面でのみ使いこなすべきだと思う。(もちろん、樋口式が悪いとかは1ミリも思っていない)

↓参考までに。ワタクシはこちらの記事にすごく同意してる。同じ意見の方がいて安心したぜ。

<https://gendai.media/articles/-/59825?page=3>

志望理由書編

ここからは志望理由書編です。参考文献は「ゼロから1ヵ月で受かる 大学入試 志望理由書のルールブック」です。当たり前ですが、内容はその完コピではないし、著作権怖いので自分の言葉で言い換えております。

もっと知りたかったらお買い求めください。ちなみにワタクシはAmazonのKindle Unlimitedに加入しているので電子書籍版で読み放題です。(どうでもいい)

志望理由書を書くときに念頭に置くべきこと

① 大学は研究機関に学問を学びに行くという意識

→この意識を忘れると志望理由書に思わず「大手企業への就職実績が多いから」「小さいころからの憧れでした」「知名度が高いから」とか書いてしまうが、あまりに論外である。大学は学問を学ぶ・研究をする場や。

② 社会のために新しい未来を作り出すという意識

→単に「進学して教師になりたいです」では大学はあなたを取りたがらない。せめて「進学して英文学を研究し、卒業後に教師になって新しい英語教育を生み出したい」みたいな感じになる。

つまり、「社会に貢献するために進学をする」という意識を持って書いた方がいい。(自己犠牲をしるという意味ではなく、自己の損得を中心に考えるなということである)

③ 周囲の受験生が「〇〇コンテスト優勝」とか実績あっても勝ち目はある

→色々スゴイ実績を残している人もいるわけだが、どうやらそういう人が必ず受かるとは限らないらしい。そういう人の中には志望理由書で「自分の損得勘定」が見えたりすることもあり、そういう人は落ちる可能性があるっばい。要は、社会に貢献するために学問を学ぶ意識があることが大事なり。社会貢献をする熱意、勉強・研究への熱意が志望理由書で伝われば勝てる。

【概要】志望理由書で必要な準備

一覧だけまずは見て概要を掴んで頂きたい。次のページから一つずつ説明を書いていく。
気になる項目から読んでみても面白いかも。

①学部・学科の選択理由

- (1) 何を学びたいか
 - 1, 誰のために、何のために学ぶか
 - 2, 具体的に何をテーマに学ぶか
 - 3, どのような学問領域を学ぶか
 - 4, どのように学ぶか

- (2) その学びはどのくらい重要なのか
 - 1, 現実はどうなのか
 - 2, その現実における課題
 - 3, その課題の解決方針
 - 4, どのような未来を作れるか

②大学の選択理由

- (1) それを学ぶために必要なもの
 - 1, どんな学問が必要か
 - 2, どのような環境が必要か
 - 3, どんな人物が必要か

- (2) なぜその大学に進学する必要があるのか
 - 1, 授業
 - 2, カリキュラム
 - 3, 教授・研究者

【詳細】志望理由書で必要な準備

項目は14個あるが、1個ずつ上から書き埋める必要はなくて、あちこち思考を行き来させて整理しながら書いていこう。

①学部・学科の選択理由

(1)何を学びたいか

1, 誰のために、何のために学ぶか

そもそもアナタが学ぶ目的は何なのか。その目的とその対象(誰のために)を明らかにする。それは「興味があるから」という枠を超えて、「この社会を良くしたい・人を幸せにしたい」のような目的が見えてくると思われる。

2, 具体的に何をテーマに学ぶか

例えば「法律系の勉強がしたい」「コンピューター系の勉強をしたい」などは曖昧すぎる。学びたい内容・研究したい内容が絞られていないので、その焦点を絞るべきである。(具体的に考えるというワケではなく、テーマを絞るだけ)

法律系なら民法、刑法、憲法など。コンピューター関連ならハードウェア、ICT、通信技術、ブロックチェーン、LLM(自然言語モデル)など。

3, どのような学問領域を学ぶか

「物理学」「社会学」「法学」「情報」などの曖昧な括りのことではない。例えば社会学なら「社会学史」「社会階層」「社会統計学」「メディア研究」「犯罪学」「社会福祉学」などなど。2で立てたテーマをどの観点から学び、研究するかを考える。

4, どのように学ぶか

2, 3を特定すると、どのように学び・研究を進められるかが具体的にってくる。手法としては「社会調査」「実験」「試作品を作り他者に触ってもらう」など。どういう手法で研究することを計画しているかを明確にする。

(2) その学びはどのくらい重要なのか

なぜその学問を学ぶこと・研究することが重要なのかを整理する。

1, 現実はどうなのか

「現実では〇〇という問題が起きている」という現実を理解する。それは書籍や論文で見たのか、経験したのか、人から聞いたのか、などの情報源から得られる。

2, その現実における課題

1で出た現実について、解決できていないことや問題点を整理する。

「現在、誰もこの研究をしていないからこの問題点がある」「研究はされているが、その研究でこういう問題点がある」という2方面のアプローチが浮かび上がる。

※後者は既に研究されていること(=先行研究)について知っておかなければならないので、難易度は高そう。

3, その課題の解決方針

2の課題をその学部学科の専門領域を用いてどのようにして解き明かすのか、という方針の概要を考える。その方針は仮説(=最も確からしいと考えられる仮の答え)でもよい。

※普通に考えて学生が定説・有力説を生み出すには難しいから大半が仮説になるかと思われる。

とにかくここでは、「どうすれば新しい『知』を生み出せるのか」ということを考えるべきである。、「どうすれば新しい『知』を生み出せるのか」を具体的に言い換えれば、「大学4年間で何を学び、何を経験し、学部学科の支援の下で何を解き明かそうとしているか」ということになる。

4, その課題解決がどういう未来を作れるか

学び・研究を通してどういう未来を作るかを考える。すなわち、「アナタが学び・研究することで、未来がどう変わるのか、変えるのか」をまとめる。

②大学の選択理由

(1)それを学ぶために必要なもの

「3,その課題の解決方針」を元に、学び・研究を進めるには何が必要かを考える。

1,どんな学問が必要か

大学入学後にどんな学問を身に付ける必要があるのかを整理する。それを見つけるためには、前ページで考えた「(1)何を学びたいか」「(2)その学びはどのくらい重要なのか」をどんどん探究する。そうすれば「この学問を学ばないと本質にたどり着けない」「もっと学んでみたい」というところが見えてくる。

2,どういう環境が必要か

これは研究室だったり、ゼミナールだったり。もしくは学びたいテーマによっては他学部の協力も必要かもしれない。はたまた大学を超えて他大学との協力体制を必要とするかもしれない。

3,どんな人物が必要か

どういう専門分野の教員の支援が必要かということをもとめる。どんな教員がいるかを知るには大学のパンフレットやインターネット、カリキュラム、シラバス(=大学の授業計画書)を活用していく。カリキュラムとシラバスはインターネットで基本的には入手できる。

(2) なぜその大学に進学する必要があるのか

「その大学だから『4, その課題解決がどういう未来を作れるか』で考えたことが実現できる」ということを考える。

※ただし、これを考える前提として「何が自分に必要な学問か」が分かっているなければならない。

1, 授業

カリキュラムやシラバスをじっくり読めば「こういう授業内容をこう活かしたい」というストーリーが描けると思う。単に「受けたい」で終わらすのではなく、「どう活かすか」まで考える。

2, カリキュラム

その大学のカリキュラムはどのような道筋で履修するのか、カリキュラム内の授業は自由に授業を選べるのか制限があるのか、などを調べたうえで、こういうカリキュラムだから学び・研究が最大限に行えるというストーリーを描く。

3, 教授・研究者

「自分の学び・研究に様々な見方を与えてほしいから、こういう教員の指導・支援を受けたい」をまとめる。その大学に在籍する教授や研究者名で調べると、その方が書いた論文が見られるので調べてみると良い。

この資料の PDF 版はこちらから。色付きでございます。



<https://kanbun-shugendo.com/how-to-write-essay>